株式会社フリークアウト・ホールディングス

（東証グロース：6094）

2026年9月期 通期
決算説明資料

2026年11月13日

© FreakOut Holdings

Agenda

Section1　ハイライト

Section2　セグメント別の状況

Section3　第4四半期決算の状況

Section4　業績予想について

※ 本決算説明資料の基礎データの一部は、IRライブラリからExcelファイルでダウンロードいただけます。
（ダウンロードリンクはこちら）

© FreakOut Holdings

Section1 ハイライト

© FreakOut Holdings

26年9月期Q4 業績ハイライト

26年9月期Q4 実績

		前年同四半期比
売上高	139.2 億円	+3.8%
EBITDA	6.9 億円	+19.4%
調整後当期利益	3.1 億円	+112.4%

26年9月期 通期累計

		業績予想*達成率
売上高	567.0 億円	102.0%
EBITDA	31.5 億円	101.5%
調整後当期利益	12.0 億円	125.8%

*2026年3月19日開示

26年9月期 業績予想*

売上高	556 億円
EBITDA	31.0 億円
調整後当期利益	9.5 億円

*2026年3月19日開示

サマリー

（第4四半期）売上高・EBITDA・調整後当期利益のすべてで前年同四半期比増収増益

- クリエイター&アスリート事業が大きく利益貢献し、EBITDAは前年同四半期比+19.4%の6.9億円
- プロダクト事業は、IRISの好調と中国・韓国を除くアジアの収益改善により動画・Connected TV 領域の粗利減の影響をカバー
- 北米事業は前年同四半期比増収増益。第3四半期時点の見通し（EBITDA 2～3億円）にはわずかに届かずも、概ね想定どおりで着地

（通期）3月公表の業績予想を、EBITDA・調整後当期利益など主要指標で上回る着地（大幅な増収増益）

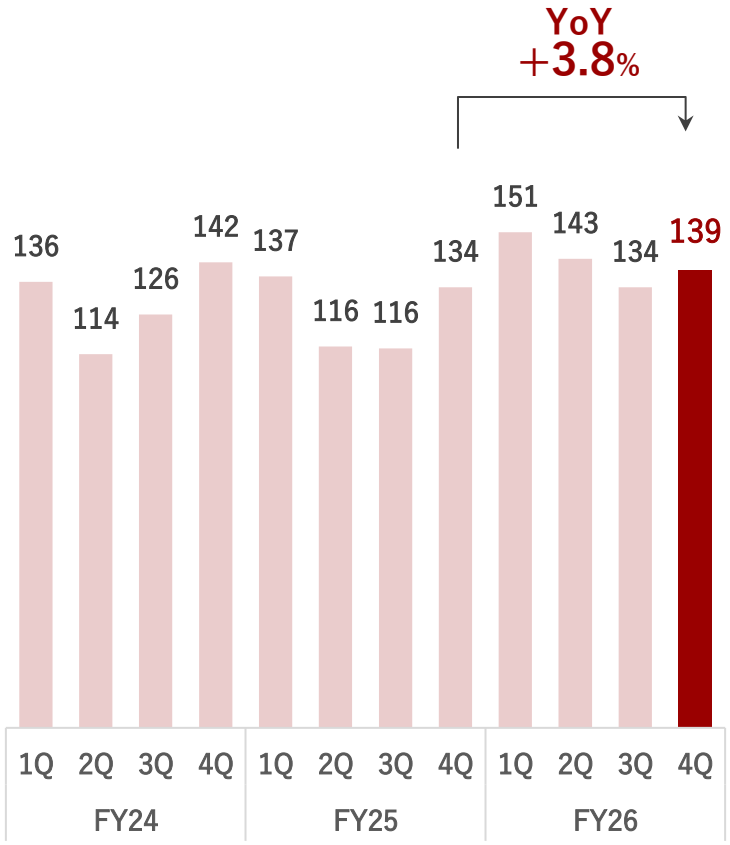
- 売上高567.0億円（前年比+12.7%）、EBITDA 31.5億円（同+61.1%）、調整後当期利益12.0億円（同+85.0%）
- 2026年3月公表の業績予想に対する達成率は、売上高102.0%、EBITDA 101.5%、調整後当期利益125.8%

© FreakOut Holdings

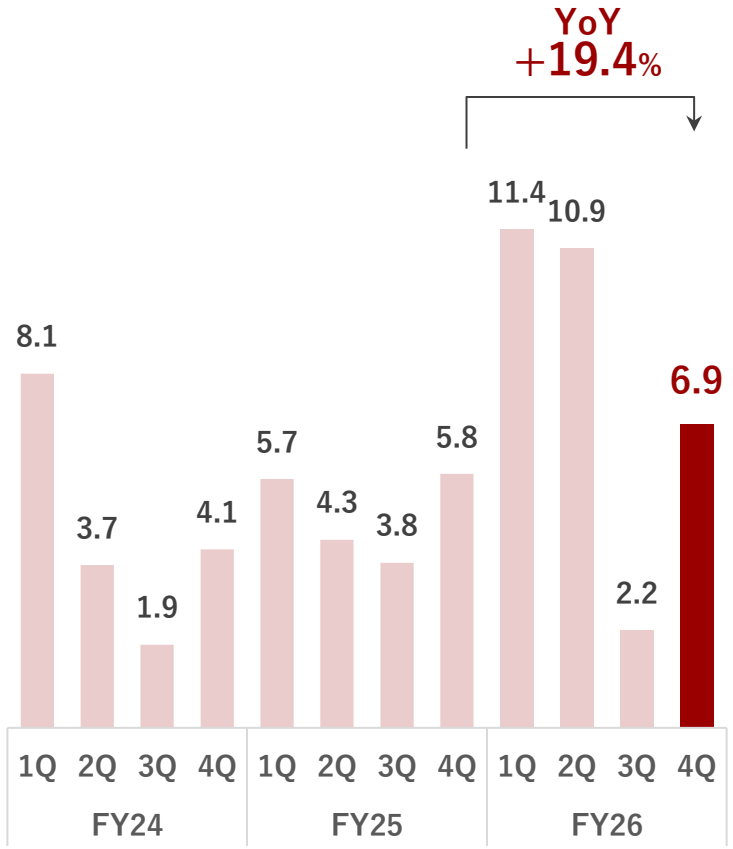
連結 業績推移

単位：億円

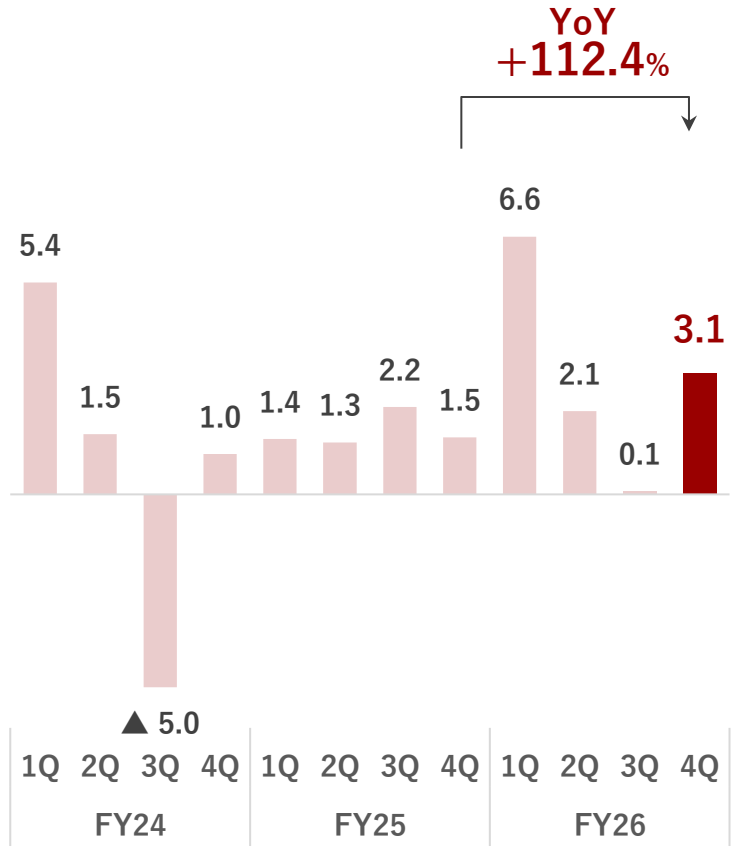
売上高



EBITDA[1]



調整後当期利益[2]



1. 営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法による投資利益＋株式報酬費用＋M&Aに関する株式取得・売却関連費用
2. 親会社に帰属する当期純利益＋のれん償却費および買収に伴う無形資産償却費＋株式報酬費用±一過性の損益調整額（※）

※今四半期では主に一部営業投資有価証券 / 有価証券の評価損、本社移転費用の影響を排除

© FreakOut Holdings

セグメント別概要

（単位:億円）	売上高		EBITDA		ハイライト
	FY26 4Q	YoY	FY26 4Q	YoY	
全体	**139.2**	+3.8%	**6.9**	+19.4%	
プロダクト	**27.9**	▲24.6%	**4.3**	▲23.9%	• セグメント変更（中国・韓国事業を移管）及び商流変更の影響を除き：売上高▲3.3%、EBITDA+154.9% • 上記の影響を除いた4Q実績：売上高 26.2 億円、EBITDA 3.2 億円
クリエイター&アスリート	**58.5**	+9.4%	**7.3**	+316.4%	• セグメント変更（中国・韓国事業を受け入れ）及び、コーポレート機能の移管の影響を除き：売上高+3.4%、EBITDA+149.6%
北米	**54.0**	+19.9%	**1.9**	+60.5%	• 課題であった直販領域の収益が足元の業績で正常化し、前年同四半期比で増収増益。第3四半期の見通し（EBITDA 2～3億円）を僅かに下回るも、概ね想定通りの水準。
その他	**▲1.3**	-	**▲6.6**	-	• UUUMのコーポレート機能を移管した影響によるコスト増（約3億円）

*その他は、投資事業、連結調整（売上高）、その他持分法投資先、本社コスト（EBITDA）等の合算値

Section2 セグメント別の状況

© FreakOut Holdings

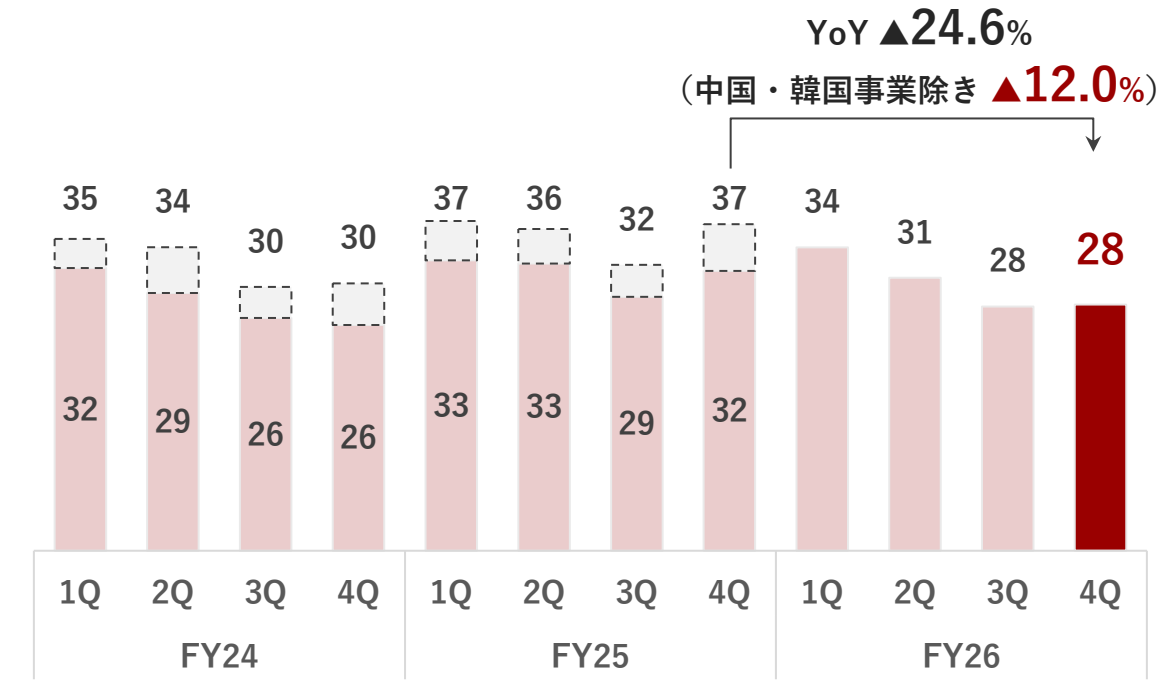
プロダクト事業 業績推移

- 売上高・EBITDA双方で、セグメント変更と商流変更の影響により対前年同四半期比大幅に減少（▲24.6%、▲23.9%）
- 上記影響がなければ、利益ベースで+154.9%（IRISの好調とアジアの収益改善が牽引）
- 27年9月期は、AIエージェント（スミカ、HAWK）の成長、アジアの収益改善、リテールサイネージの拡販強化により増益を計画

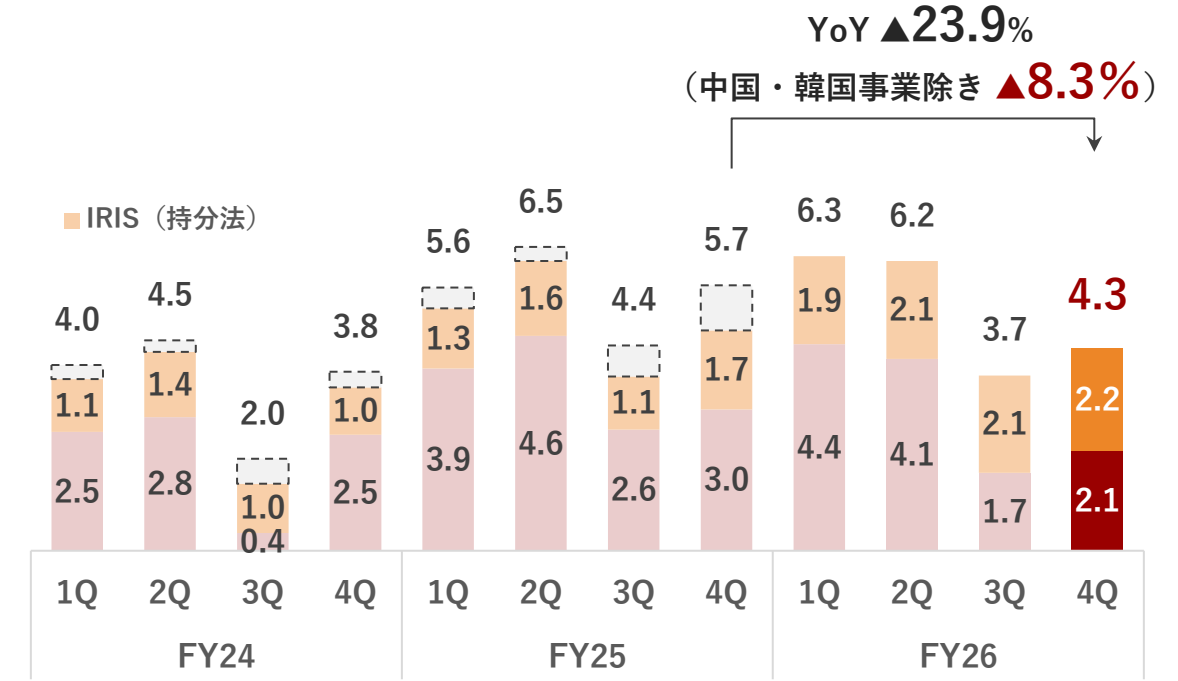
中国・韓国事業（FY26Q1以降プロダクト事業からクリエイター&アスリート事業にセグメント変更）

単位：億円

売上高



EBITDA



© FreakOut Holdings

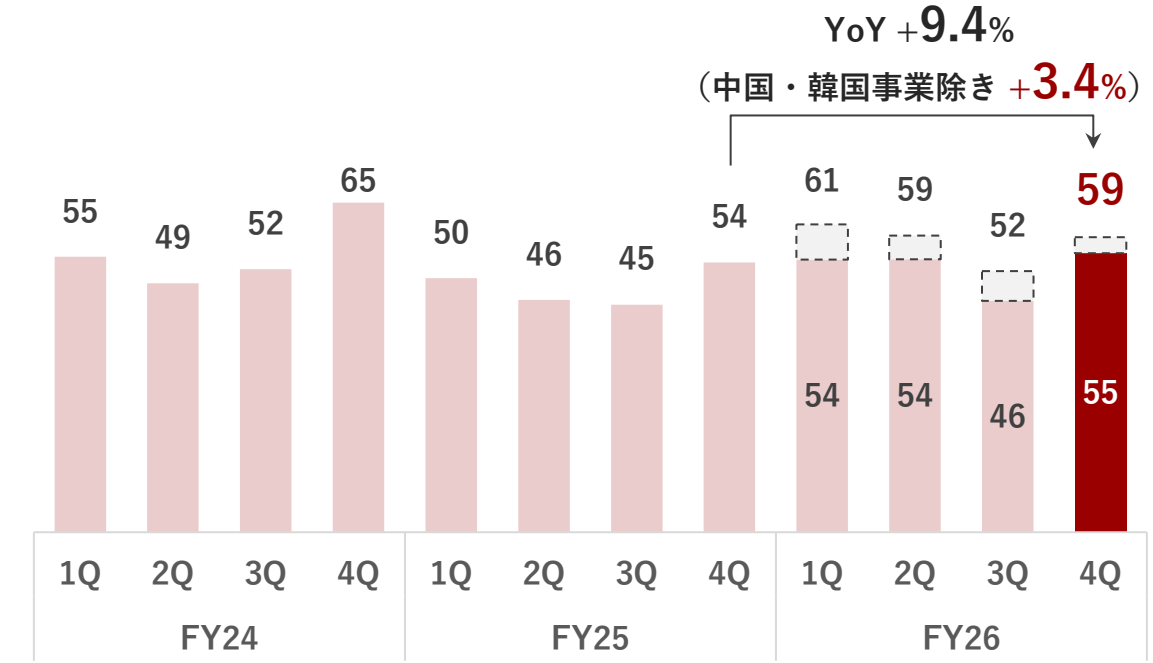
クリエイター&アスリート事業 業績推移

- コーポレート機能移管等の影響を除くベースでも、EBITDAは前年同四半期比+149.6%と大幅増益で着地し、第3四半期の減益から増益基調に回帰
- 第4四半期からUDN SPORTSのPL取り込みが開始。27年9月期以降も、クリエイターとアスリートとの共創、マネタイズの強化を推進

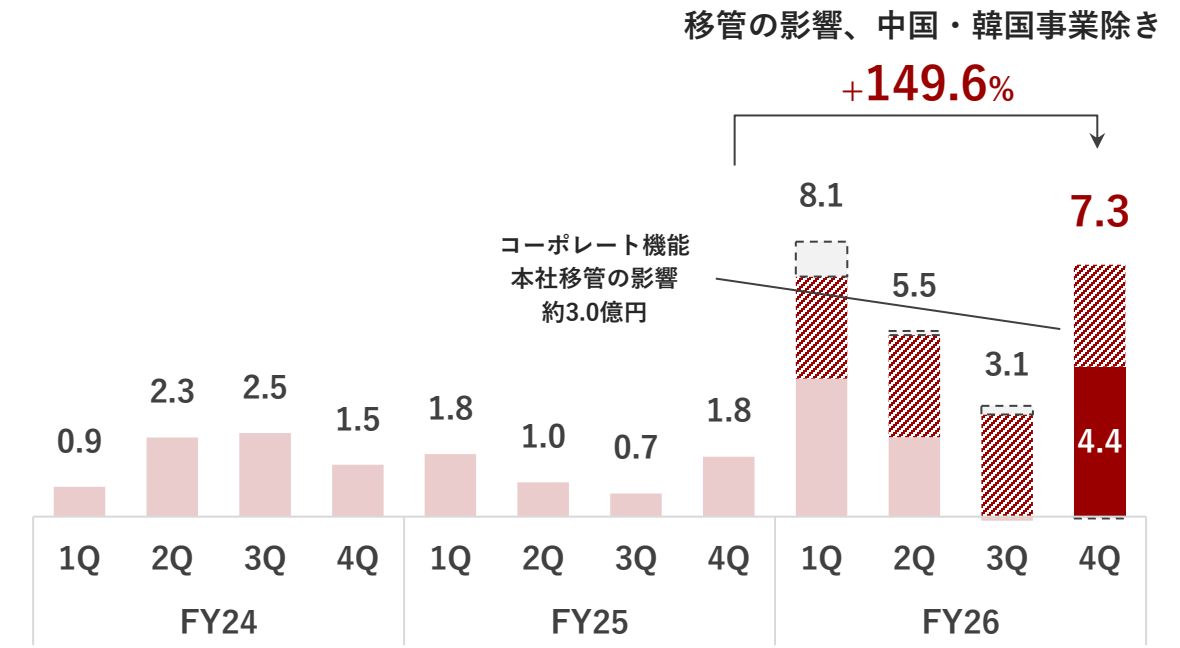
中国・韓国事業（FY26Q1以降プロダクト事業からクリエイター&アスリート事業にセグメント変更）

単位：億円

売上高



EBITDA



© FreakOut Holdings

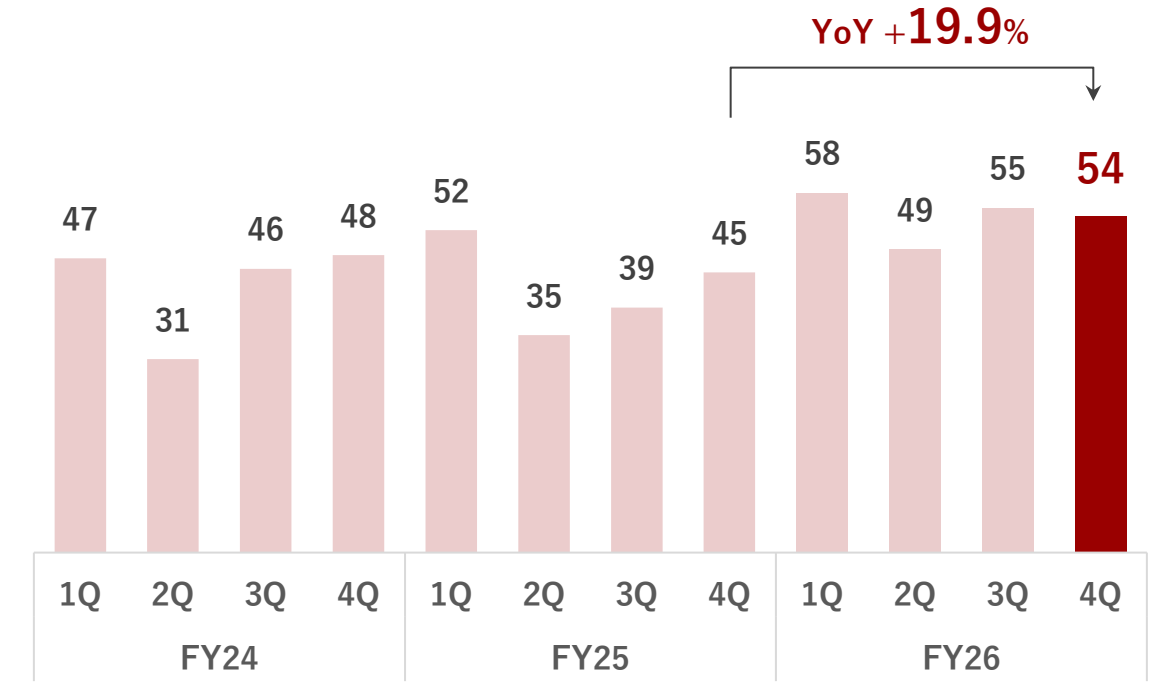
北米事業 業績推移

- 前年同四半期比増収増益。第3四半期時点の見通し（EBITDA 2～3億円）にはわずかに届かずも、概ね想定どおりで着地
- 足元の業績で、利益率の高い直販領域の売上が正常化傾向。来期も引き続き、直販領域への注力とコスト最適化で、収益性の改善を図る

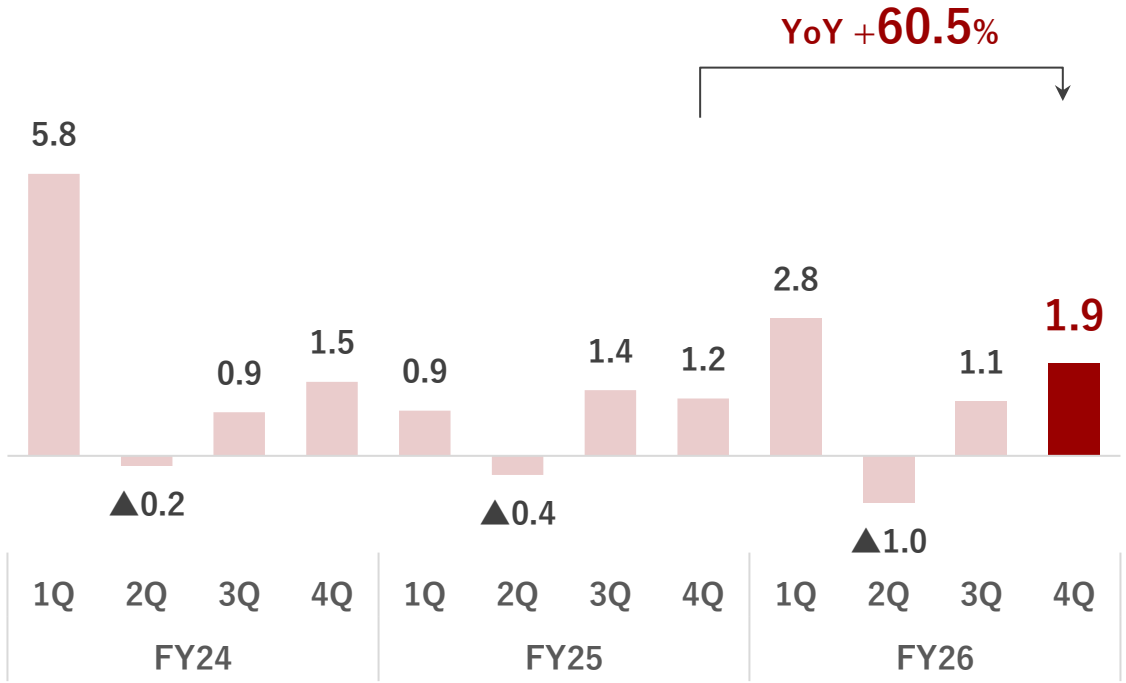
※現地通貨ベース（USD）の実績はAppendixに掲載

単位：億円

売上高



EBITDA



© FreakOut Holdings

Section3 第4四半期決算の状況

© FreakOut Holdings

連結損益計算書

- **通期では、すべての段階利益で前年を大きく上回り着地**
- **調整後当期利益は第4四半期と通期の双方の実績で増益となっており、一過性の要因を除いた当社事業の利益創出力は、引き続き着実に成長を維持**

単位:億円

	26年9月期 4Q	25年9月期 4Q	YoY
売上高	**139.2**	**134.2**	+3.8%
EBITDA[1]	**6.9**	**5.8**	+19.4%
営業利益	**0.5**	**1.0**	-
経常利益	**0.8**	**3.8**	-
調整後当期利益[2]	**3.1**	**1.5**	+112.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	**▲0.6**	**5.5**	-

	26年9月期 通期	25年9月期 通期	YoY
売上高	**567.0**	**503.2**	+12.7%
EBITDA[1]	**31.5**	**19.5**	+61.1%
営業利益	**8.5**	**1.0**	+784.4%
経常利益	**18.4**	**5.6**	+225.3%
調整後当期利益[2]	**12.0**	**6.5**	+85.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	**12.8**	**2.8**	+366.4%

1. 営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋持分法による投資利益＋株式報酬費用＋M&Aに関する株式取得・売却関連費用
2. 親会社に帰属する当期純利益＋のれん償却費および買収に伴う無形資産償却費＋株式報酬費用±一過性の損益調整額（※）

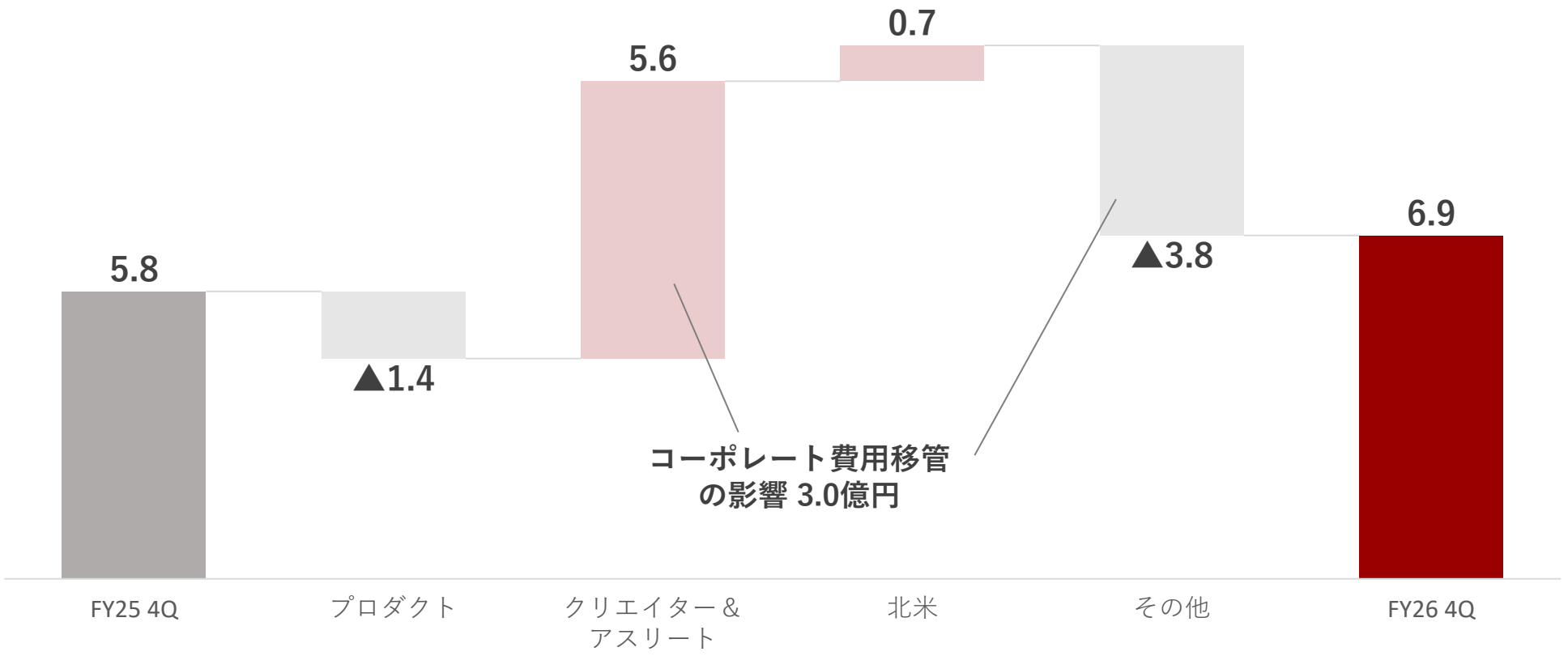
※今四半期では主に一部営業投資有価証券 / 有価証券の評価損、本社移転費用の影響を排除

© FreakOut Holdings

EBITDAの前年同四半期比

- クリエイター&アスリート事業は、実質ベースでも大幅増益（+2.6億円）で、全体の収益に貢献
- プロダクト事業では、商流変更の影響をIRISの好調、および中国・韓国を除くアジアの収益改善で緩和

単位：億円



各段階利益 推移

- **持分法投資利益は、IRISの好調により四半期ベースで過去最高（2.7億円）を更新**
- **為替差損1.5億円が発生し、為替差損益を除く経常利益は2.3億円（前年同四半期2.7億円）**

単位:億円	FY24 1Q	FY24 2Q	FY24 3Q	FY24 4Q	FY25 1Q	FY25 2Q	FY25 3Q	FY25 4Q	FY26 1Q	FY26 2Q	FY26 3Q	FY26 4Q
営業利益	3.7	▲2.0	▲2.2	0.6	1.6	▲0.4	▲1.3	1.0	6.2	5.3	▲3.4	**0.5**
持分法投資利益	0.8	2.3	1.3	1.0	1.3	1.8	1.9	1.6	2.2	2.6	2.3	**2.7**
のれん償却費	1.1	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	**0.8**
減価償却費	1.9	2.3	2.4	2.3	2.4	2.5	2.8	2.8	2.7	2.7	2.9	**2.7**
株式報酬費用	0.6	0.2	0.2	▲0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.0**
株式取得・売却関連費用[*1]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.1**
EBITDA	8.1	3.7	1.9	4.1	5.7	4.3	3.8	5.8	11.4	10.9	2.2	**6.9**
経常利益	2.0	2.9	1.5	▲2.7	5.7	▲2.2	▲1.6	3.8	10.9	7.7	▲1.0	**0.8**
為替差損益	▲2.1	2.3	2.5	▲4.6	4.0	▲2.7	▲1.5	1.1	2.8	0.4	0.6	**▲1.5**
経常利益（為替差損益除く）	4.1	0.6	▲1.0	1.9	1.7	0.5	▲0.1	2.7	8.1	7.3	▲1.6	**2.3**
調整後当期利益	5.4	1.5	▲5.0	1.0	1.4	1.3	2.2	1.5	6.6	2.1	0.1	**3.1**

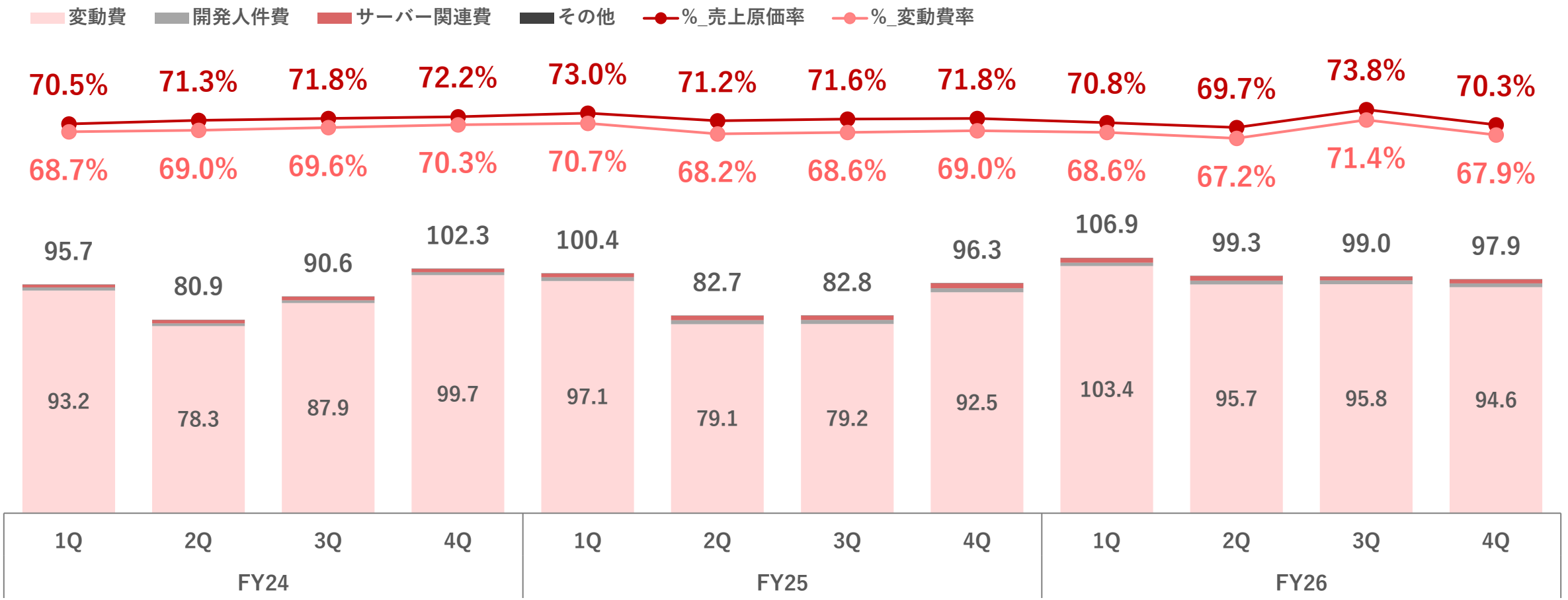
1. 株式取得・売却関連費用はM&A（取得・売却）に伴って発生する費用の集計

© FreakOut Holdings

連結売上原価（投資事業除く）の推移

利益率の高い北米の直販領域における収益回復等の影響により、売上原価率は70.3%と前年同四半期（71.8%）・前四半期（73.8%）から改善

単位:億円

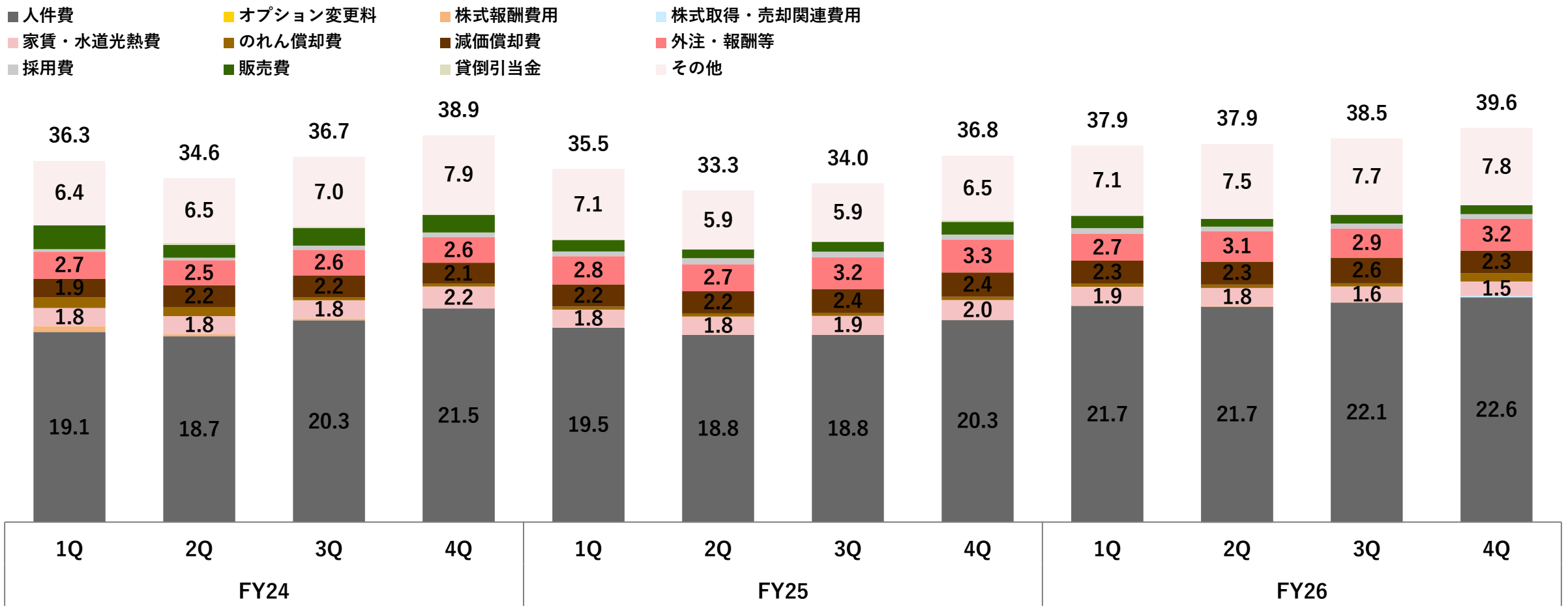


© FreakOut Holdings

連結販売管理費の推移（全体）

北米の人件費上昇や、円安の影響によるシステム利用料の増加等により前年同四半期比で販管費増も、本社移転により家賃・水道光熱費は減少

単位:億円



（参考）人員数推移

人員数は、大きな変動なく推移

単位:人

	FY24				FY25				FY26			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
プロダクト	356	359	345	383	378	383	393	402	396	395	387	379
クリエイター&アスリート	537	519	519	502	494	503	527	513	524	533	563	567
北米	89	92	99	96	88	85	88	90	97	97	94	91
その他（本社等）	43	45	40	44	48	50	55	62	66	66	74	72
グループ合計	**1,025**	**1,015**	**1,003**	**1,025**	**1,008**	**1,021**	**1,063**	**1,067**	**1,083**	**1,091**	**1,118**	**1,109**

© FreakOut Holdings

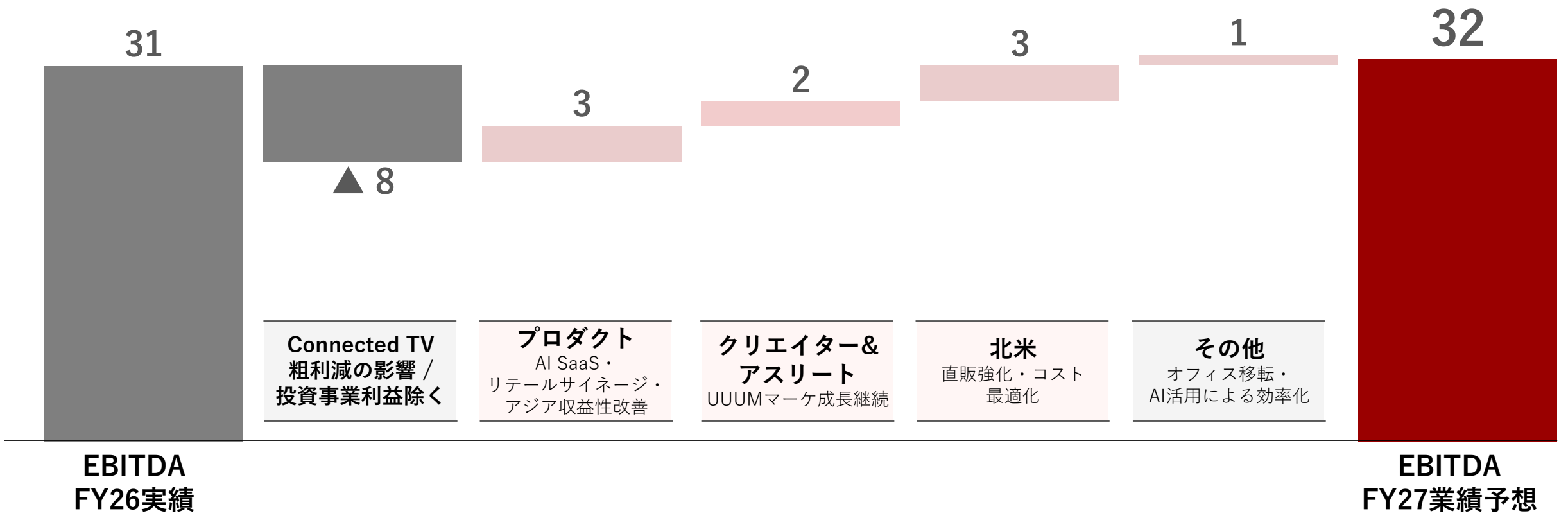
Section4 業績予想について

© FreakOut Holdings

業績予想について（EBITDAの増減内訳）

- **27年9月期は、動画・Connected TV領域の粗利減と26年9月期の投資事業利益の剥落（計▲8億円）を、プロダクト・北米を中心とした各事業の増益で吸収し、EBITDA 32億円（前年比+1.0億円）を見込む**

単位:億円



© FreakOut Holdings

Appendix 1

会社概要

© FreakOut Holdings

会社概要

会社名	株式会社フリークアウト・ホールディングス			
設立	2010年10月1日			
資本金	35億5205万円			
所在地	〒106-0032 東京都港区六本木7-15-9　住友不動産六本木セントラルタワー7F			
役員構成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役 （常勤監査等委員）	井出 博之
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役 （監査等委員）	高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役 （監査等委員）	松橋 雅之
事業内容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理			
発行済株数	18,022,924株			

主要株主[*1]	本田 謙[*2]	37.58%
	伊藤忠商事株式会社	12.86%
	株式会社SBI証券	10.85%
	BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS - PACIFIC POOL	4.07%
	スカパーJSAT株式会社	3.86%
	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2.19%
	海老根 智仁	1.63%

*1. 2026年9月末時点の主要株主の状況を記載、発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合
*2. 代表取締役である本田謙氏は資産管理会社MOTHERS OF INVENTION PTE. LTD.を通じて当社株式を保有

© FreakOut Holdings

Appendix 2

業績補足資料

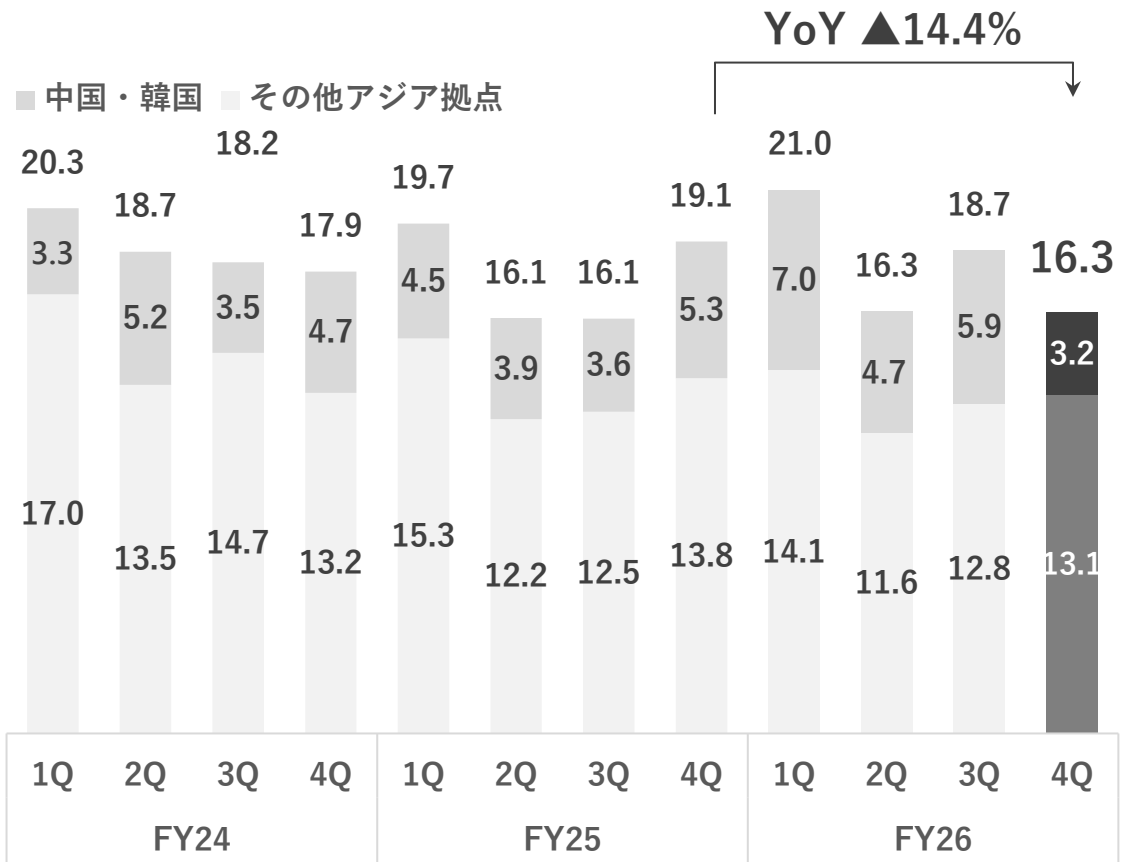
© FreakOut Holdings

アジア 業績推移

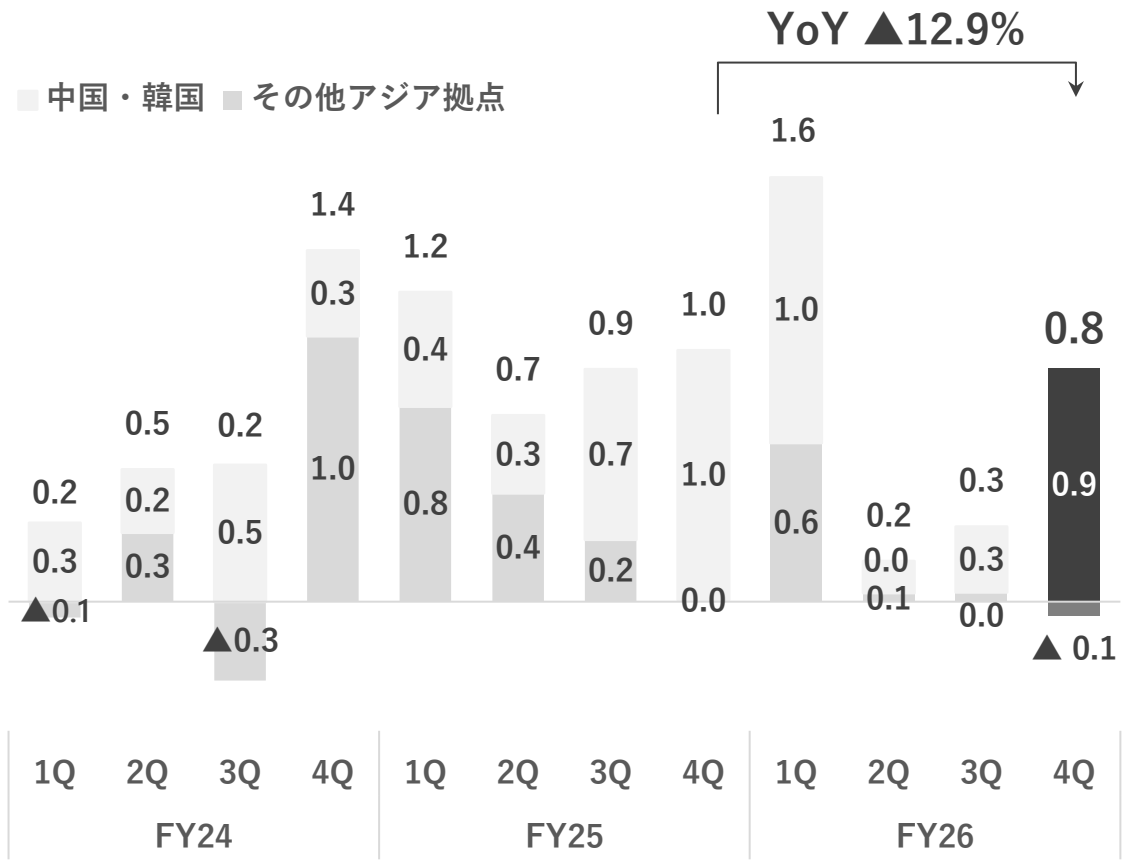
中国・韓国事業　：クリエイター&アスリート事業
その他アジア拠点：プロダクト事業

単位：億円

売上高



EBITDA

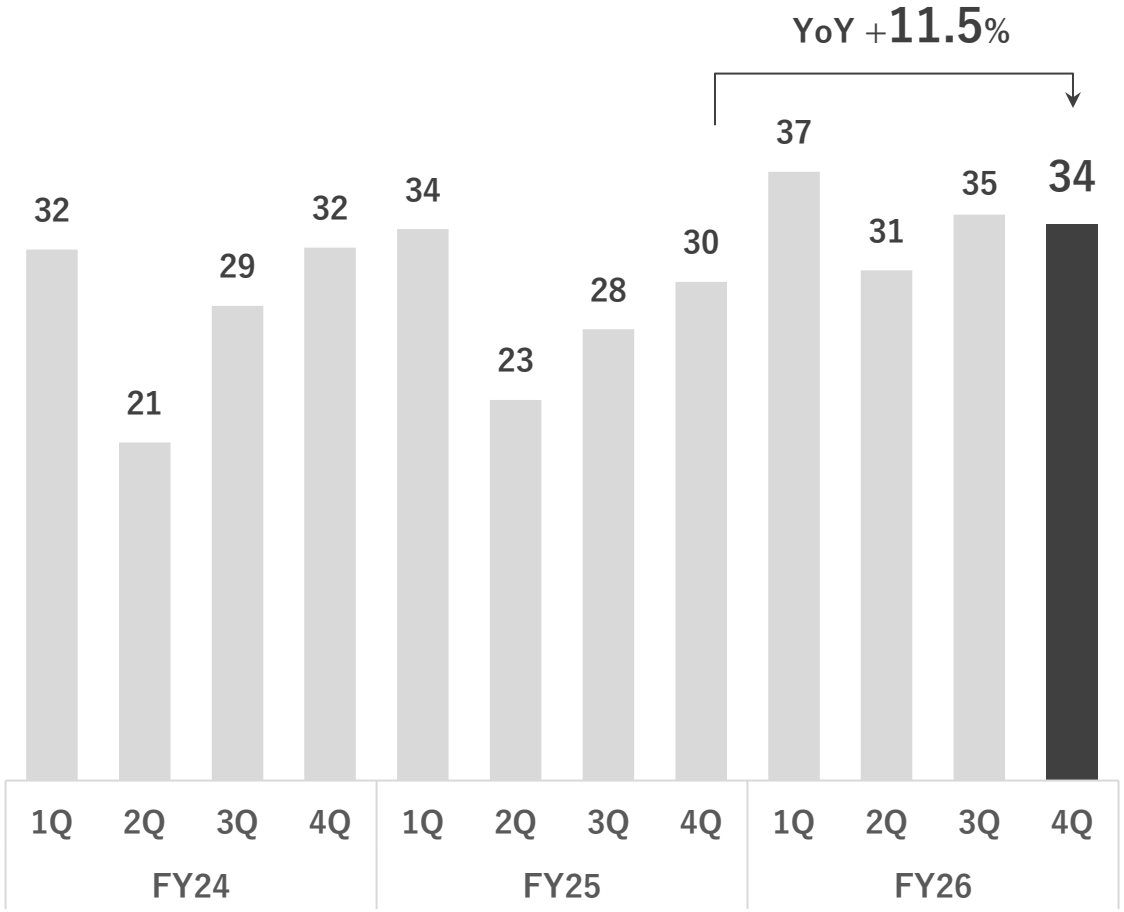


© FreakOut Holdings

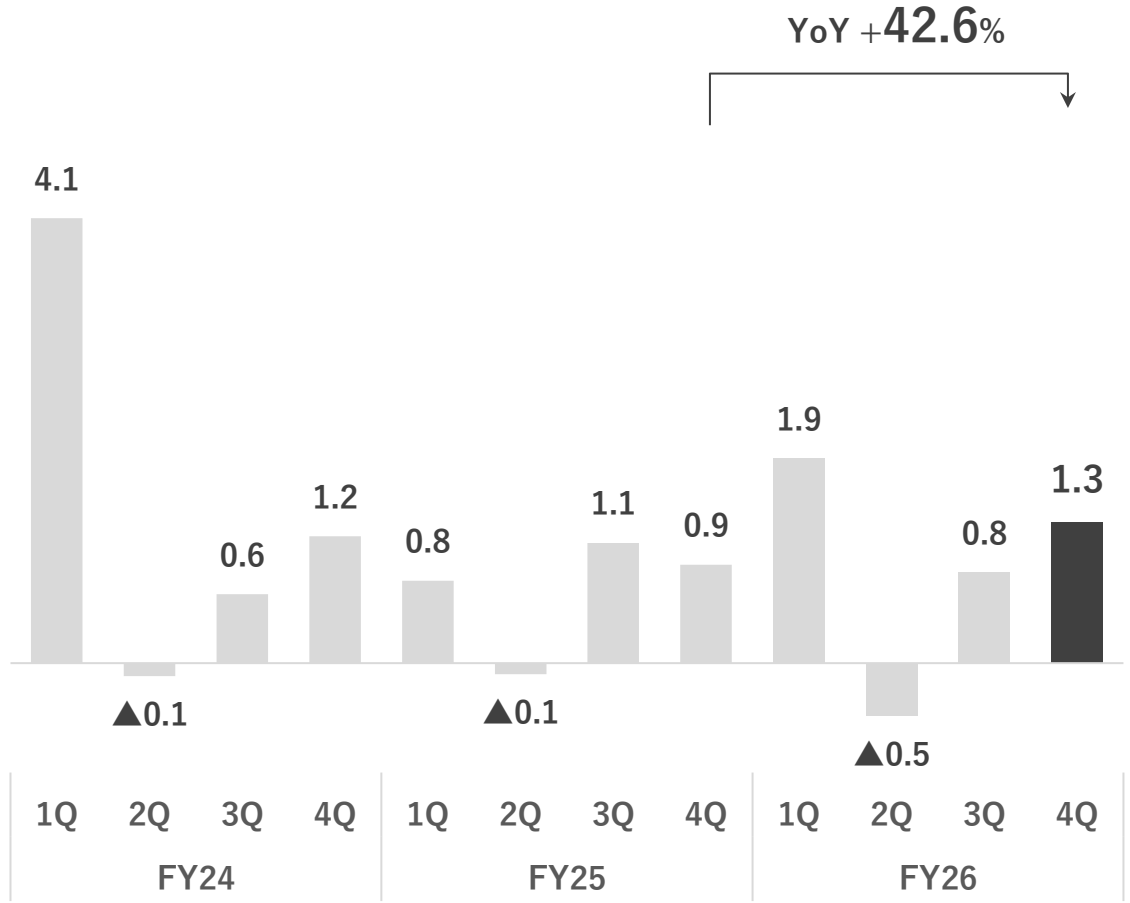
北米事業 業績推移（ドルベース）

単位：百万ドル

売上高



EBITDA



© FreakOut Holdings

連結売上原価（四半期会計期間）

（単位:百万円）

	FY26 4Q	FY25 4Q	前年Q比	FY26 3Q	直前Q比
変動費	9,459 67.9%	9,250 69.0%	2.3%	9,582 71.4%	▲1.3%
開発人件費	158 1.1%	167 1.2%	▲5.4%	157 1.2%	0.5%
サーバー関連費	168 1.2%	208 1.6%	▲19.4%	163 1.2%	3.3%
その他	2 0.0%	1 0.0%	60.2%	2 0.0%	1.7%
売上原価計	9,788 70.3%	9,627 71.8%	1.7%	9,905 73.8%	▲1.2%

© FreakOut Holdings

連結販管費（四半期会計期間）

（単位:百万円）

	FY26 4Q	FY25 4Q	前年Q比	FY26 3Q	直前Q比
人件費	2,259 16.2%	2,032 15.1%	11.2%	2,207 16.5%	2.4%
家賃・水道光熱費	145 1.0%	199 1.5%	▲27.1%	159 1.2%	▲8.4%
のれん償却費	81 0.6%	32 0.2%	152.7%	32 0.2%	152.7%
減価償却費	229 1.6%	244 1.8%	▲6.2%	258 1.9%	▲11.5%
外注・報酬等	318 2.3%	328 2.4%	▲3.0%	294 2.2%	8.3%
採用費	49 0.4%	53 0.4%	▲7.4%	49 0.4%	▲0.8%
販売費	89 0.6%	128 1.0%	▲30.1%	88 0.7%	1.5%
その他	793 5.7%	667 5.0%	18.9%	762 5.7%	4.1%
販管費計	3,964 28.5%	3,683 27.5%	7.6%	3,849 28.7%	3.0%

※金額の下に記載している%は対売上高比。

© FreakOut Holdings

Appendix 3

フリークアウトグループ - At a Glance

© FreakOut Holdings

人に人らしい仕事を。

Give People Work That Requires A Person.

近年、AI技術の躍進により、企業はデジタル変革への取り組みをより一層強化しています。しかし、我々フリークアウトは、AI技術による変革の核心は、単に既存の業務効率を向上させるだけではなく、新たな価値を生み出すことにあると考えています。すなわち、我々が目指すのは、AI技術による効率化で生まれた新しい時間、考え方によって、今までにない新しい価値を人が作り出す、**「人らしい仕事」の創造**です。これにより、AI技術の進歩が、仕事を奪われるというネガティブなものではなく、人々にとって希望に満ちたものとなることを願っています。

これからも我々フリークアウトは、**「人に人らしい仕事を」**をミッションに、AI技術の躍進の波に乗りながらも、人間が持つ創造性や感性を大切にしていきます。それによって、単なる効率化だけでなく、独自の要素や革新的なアイデアを社会に対してもたらすことができるでしょう。フリークアウトは、AI技術を最大限活用しつつ、人間が持つ独自性と共存・共栄する未来を実現することを目指しています。

代表取締役社長 Global CEO
本田 謙

© FreakOut Holdings

フリークアウトグループ - At a Glance（2026年9月期）

売上高	EBITDA	営業利益	当期純利益	時価総額*1
567 億円	31.5 億円	8.5 億円	12.8 億円	93 億円

プロダクト

日本

売上高（DSP、アドプラットフォーム等）

69億円

FY26

タクシーサイネージシェア（都内）*2



64.8%

アジア

売上高

52億円

FY26

クリエイター&アスリート

売上高

230億円

FY26

北米

売上高

216億円

FY26

1) 2026年９月30日終値で計算
2) 分子は都内のIRIS社タクシーサイネージ導入タクシー台数、分母は都内のタクシー台数

© FreakOut Holdings

主な事業内容

- テクノロジー企業として、広告技術を中心に、多方面にプロダクトを展開。
- UUUMを傘下に持ち、広告主とメディアを繋ぐプラットフォームから、メディア領域にも拡大

プロダクト事業

広告主向け

Red
国内最大級の広告在庫を保有するDSP

ASE
位置情報マーケティングプラットフォーム

コンテクスチュアルターゲティングによるYouTube広告枠買付

FreakOut Pte.Ltd.
（アジア）海外拠点によるグループプロダクト販売

リテール向け

STORE GEEK
定番棚設置型リテールメディアサービス

メディア向け

Scarlet
広告プラットフォームの構築を一気通貫で支援するソリューション

TOKYO PRIME
プレミアムなデジタルサイネージ（タクシー）広告

Maroon
デジタルサイネージ配信システム

不動産賃貸業者向け

スミカ
AIチャットボット×オペレーターによるハイブリッド型接客、物件掲載の自動化等のBPaaSソリューション

クリエイター

クリエイターマネジメント

UUUM
国内最大のクリエイターネットワークを基盤とし、マネジメントやコンテンツ制作支援等包括的なソリューションを展開

広告営業

UUUM Marketing
企業のインフルエンサーマーケティング課題に対する広告・プロモーション施策を企画・提供

北米

メディア向け

playwire
英語圏メディアの収益最大化を支援するプラットフォームサービス

その他

ベンチャー投資

FreakOut Holdings
複数ファンドの運営

質問等のお問い合わせ先

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
お問い合わせフォーム：https://www.fout.co.jp/contact/company/ **お問い合わせの種類：IR関連**

© FreakOut Holdings



Give People Work That Requires A Person.